

津偕楽公園内の社交倶楽部

飯田良樹

桜の季節になると孫達に連れられて遊びに行く津偕楽公園は、林や池あり小山ありと都会の中で自然が楽しめる場所ですね。(孫達の目的は桜ではなく屋台のお菓子や、おもちゃですが)

この公園の由緒をご存知ですか？

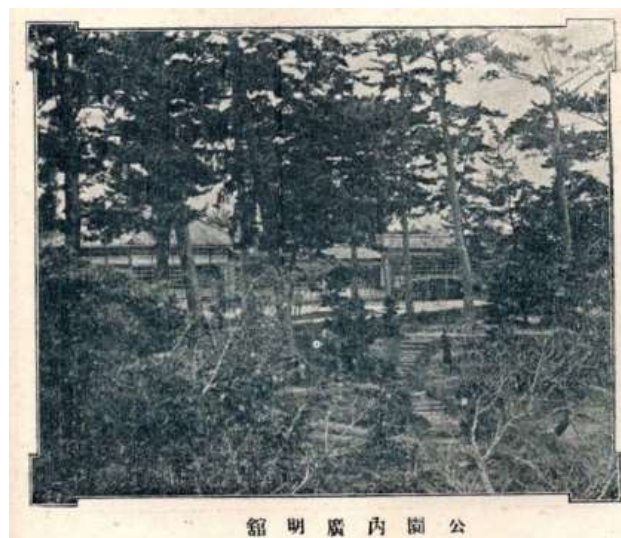
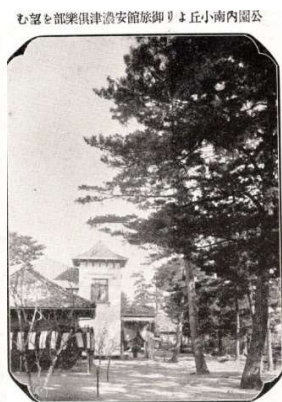
『つ・ぶんか』第70号(2019年11月)と第71号(2020年5月)の「近代産業施設と津の町」に吉村利男氏が津偕楽公園について書かれています。

文中に出てくる「安濃津倶楽部」の名はどこかで見たなと思っていたら、伊勢内宮宇治橋前にあった御師澤瀉大夫宅を調べていた時に入手した『東宮行啓記』(明治45年3月)に、明治43年11月、大正天皇が皇太子であった東宮時代に、津に宿泊されたのが「安濃津倶楽部」であったと記載されていたのを思い出しました。



『東宮行啓記』には、西洋風建物の玄関と立派な調度の拝謁室が掲載されています。

東宮殿下行啓書類(ミエム公文書館所蔵、ラベル23-11-16)の中に御旅館の見取り図があり、東宮殿下宿泊の配置が記載されていますが、平時の記載名がなく使用内容は不明です。



そう言えば、明治36年に発行された『三重県案内記』の「偕楽公園」に建物の写真があり木々の奥に木造家屋が写っています。明治43年の洋風建物とは違って、名前も**安濃津倶楽部**ではなく**広明館**となっています。

吉村氏の文中には明治 40 年 4 月に第 9 回関西府県連合共進会が開催されて津偕楽公園が主会場となり特賓館が新築されたのであろうと書かれています。



手元にある第 9 回関西府県連合共進会の配置図と真図から、右側に木造建物が描かれて倶楽部、左側洋館には広明館と記載されています。

『ウィキペディア』によれば、偕楽公園は、藤堂藩主の鷹狩場であり、その後、功労のあった家臣に分与されました。安政時代に第 11 代高猷（たかゆき）が家臣より買い上げて山荘「偕楽園」を建てます。明治 4 年廃藩置県で国有地になったようです。

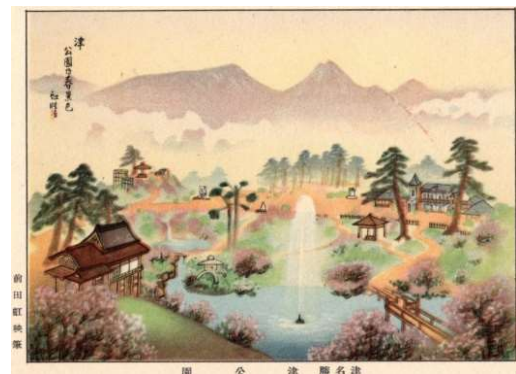
以下、明治期の偕楽公園の活用など、吉村氏の文章と写真などをまとめると

明治 10 年三重県公園と指定されて、明治 11 年県内物産博覧会が開催され出品点数 10171 点、観客約 7 万人が詰めかけ賑わいました。明治 13 年に百五銀行頭取などが音頭をとり三重県下民設博覧会が開催されます。その跡地に三重県物産陳列場が建てられ、沢山の三重県下の産物・工芸品が集められました。明治 18 年に「ハイカラ県令(知事)」と言われた石井邦猶により「公園の倶楽部」が開設され、明治 19 年には渋沢栄一や福沢諭吉などが

招待されて夜会がひらかれています。倶楽部に東京から料理人を呼び寄せて西洋料理を出していたり、球衝場（ビリヤード場）が併設されたりして津市の交流場の機能を有していたと当時の伊勢新聞に掲載されています。明治 23 年津市に公園が移管されて「津市公園」となります。明治 36 年の『三重県案内記』に倶楽部会員の紹介で洋食が食べられたと書かれています。明治 40 年の第 9 回関西府県連合共進会開催の爲に洋館が建設されたと考えられ、洋食や洋酒を用意して賓客の宿泊施設として使用されます。さらに、明治 43 年の皇太子行啓の津市宿泊施設として使用されました。大正 13 年には料理旅館内喜亭が借り受けして広明館として営業しました。



昭和 3 年吉田初三郎「津市小観」から



前田紅映「津名勝 御絵葉書」 津公園から

こうして市民に親しまれた広明館（安濃津倶楽部）であったものの、残念なことに昭和 20 年 7 月の津空襲で焼失してしまいました。

長々と書きましたが、明治の初め、津市には渋沢栄一や福沢諭吉などが訪れたハイカラな倶楽部があったんだと、コロナ禍で出歩けない中、集めた資料を眺めているこの頃です。